

自分たちの町は自分たちの手でつくっていく

【常磐学区】常磐学区町内一斉清掃

《学区データ》

学区名：常磐学区

世帯数：1,570世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：滝新町町内会

事業開始年度：昭和52年度



◆取組のきっかけと経緯

社会情勢の変化に伴い、だんだんと近隣に住んでいる人同士の付き合いもなくなり、「地域のつながり」に対して不安がありました。そこで、せめて月1回は近隣に住んでいる住民同士で顔を合わせ、交流をする機会が必要だということとなり、住んでいる地域をきれいにする目的も兼ねて、昭和52年6月から滝新町町内会の町内一斉清掃が始まりました。

「自分たちの町は自分たちの手でつくっていこう」という主旨により、以後活動を継続して行っています。

◆事業内容

町内一斉清掃は、毎月第3日曜日午前8時から1時間程度行っています。

滝新町町内会は、町内を12の区に分け、さらにそれぞれの区もいくつかの組に分かれる形で組織されています。清掃活動は主に区ごとに行われており、活動場所も区単位で分かれています。区の中で区長を中心に、組単位で担当箇所（公園、街路、側溝、トイレなど）を分担し、清掃をしています。担当箇所は月ごとにローテーションをしており、毎月清掃場所が変わっていきます。

参加者は、全戸1人は参加するようにしています。高齢者のみの世帯で、体力的に清掃活動に不安がある場合は、清掃活動は行わずによい代わりに、顔だけは見せるようにしています。

こうして、滝新町の住民のほとんどの世帯が何らかの形で活動に参加することとなります。

また、年1回は子ども会も活動に参加しており、地域の子どものから高齢者まで、幅広い年代の住民が、世代を超えて清掃活動を行っています。



◆成果

このような清掃活動を継続的に月1回行っていることで、近隣住民同士が顔を合わせ、世間話をしながら近況報告などの情報交換を行うことができます。また、地域をきれいにするという共通の目的を持って清掃活動と一緒にを行うことにより、町内が常にきれいな状態で保たれるとともに、自然と地域のつながりが強化され、地域に一体感が生まれています。地域の一体感を生み出したことにより、防災や防犯においても非常に効果をあげることができています。

また、年2回ほど、市役所環境部ごみ対策課職員による「ゴミ講習会」を行っており、総代、区長、組長、環境衛生担当者が参加しています。ごみの分別方法やごみの出し方に対する住民への指導方法のアドバイスを学べることで、地域内のごみに対する意識を高めることができます。

◆今後の展望・課題

現在、多くの世帯の住民が活動に参加をしていますが、参加しない世帯もあります。参加しない世帯は1人暮らし世帯など、地域と関わりの薄い世帯が多いです。そこで、ただ参加してくださいというのではなく、一度直接会って、防災や防犯など、地域とのつながりを持つことの大切さや必要性について話をし、納得いただいた上で活動に参加していただけるように試みています。

こんな工夫をしています！

●細分化された組織により、連絡や役割

分担を徹底！

→ 「事業内容」で説明をしたように、滝新町は町内会の下に区、その下に組と組織が細分化されています。町内一斉清掃では、こうした細分化された組織体制を生かし、清掃場所を区で割り当て、さらにその区域内を組単位で役割分担し、清掃を行うことで、地域住民の不満を生むことなく、地域内をまんべんなく清掃することができます。

また、所用により参加できない場合や雨天により活動が中止する場合も、区長を中心に区域内で円滑に連絡調整を行うことができ、地域のつながりを強化することにつながっています。

注目ポイント！

●何でも市に頼らず、自分たちの町を

自分たちでつくろうという地域性

→ 町内一斉清掃の時や日常生活において、地域内の公共物などが破損しているのを発見することがあります。そういう時には、何でも始めから市に頼るのではなく、まずは自分たちで修理できないかを考え、行動しています。見た目がきれいでなくても、自分たちで修理したことに意味があると考えています。

自分たちの手で町内をきれいにしようという意義を持って活動している町内一斉清掃などにより築き上げた地域の一体感を生かして、地域内で「自分たちの町は自分たちでつくろう」という強い意識を持ち、さまざまな活動を行っています。